



Yamagata city
DXチャレンジ
「らくっす」

山形市DX推進戦略

令和8年3月

DX
DIGITAL
TRANSFORMATION

はじめに

やまがたDXチャレンジ

便利は、もう当たり前。
「便利」を更に追求する、それが「やまがたDXチャレンジ」



Yamagata city
DXチャレンジ
「らくっす」

山形市はこれまでも、市民・事業者の皆様の視点に立ち、行政の「当たり前」を常に見直し、改善を続けてきました。私たちが進めるDX(デジタル・トランスフォーメーション)も、その想いを更に加速させるための挑戦です。

DXは、決して特別なことではありません。これまでも改善を進めてきた「行かない」「書かない」「迷わない」の取組を、更に次のステージへと進化させること。手続きの「手間」や「時間」から、市民・事業者の皆様を解放すること。そして、これまで「できたらいいな」と諦めていたことを、「できる」に変えていくこと。私たちのDXは、その実現のためにあります。

しかし、私たちの挑戦はそこで終わりません。目指すのは、手続きの「当たり前」のレベルをもう一段高め、「便利」さを更に追求すること。これこそが、私たちの「やまがたDXチャレンジ」です。この戦略は、その固い決意の証です。

市民・事業者の皆様とともに新しい未来への一步を、力強く踏み出してまいります。

目次

01 DX推進戦略について

02 山形市の取組について

03 山形市が目指すDX

04 推進ロードマップ

05 用語集



立石寺(山寺) 五大堂

01

DX推進戦略について

蔵王の樹氷



1-1 策定の背景と目的

人口減少や少子・高齢化の進行、働き手の不足など、これからのまちづくりに大きく影響する課題が生じています。特に、社会を支える中核となる生産年齢人口の減少は、地域経済の活力や行政サービスの担い手不足に直結し、喫緊の対応が求められている状況です。あわせて、社会全体ではデジタル化が急速に進み、暮らしや仕事のあり方が大きく変化しています。このような時代の変化に対応し、市民が安心して暮らし、将来に希望を持てるまちをつくるために、本戦略を策定します。

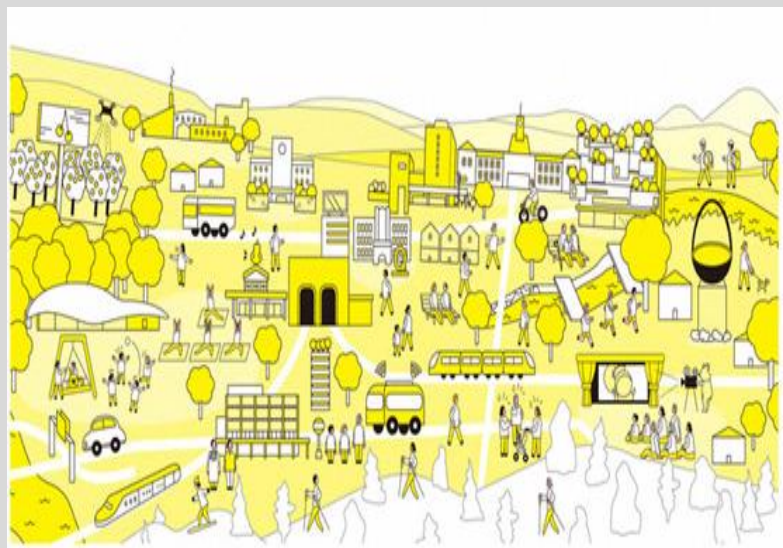
これまでも山形市は、市民・事業者の皆様の視点に立ち、「行かない」「書かない」「迷わない」の取組をはじめ、行政サービスの改善に努めてきました。

しかし、この大きな時代の転換点を乗り越え、未来への歩みを確かなものとするために、従来の改善を更に発展させ、新たな価値を創造していくことが不可欠です。

本戦略は、その新たな価値創造を実現するための具体的な指針です。目指すのは、これまで築き上げてきた「便利」さを土台とし、市民・事業者の皆様の暮らしの中に、DXでしか成し得ない「新しい価値」を創出するため、チャレンジしていくことです。

1-2 DX推進戦略ビジョン

「行かない」「書かない」「迷わない」のさらなる進化を目指します。



2040年のまちの姿(イメージ)

DXの推進で「健康医療先進都市」と「文化創造都市」を確立し、誰もが豊かさを実感できる「選ばれるまち山形市」の創造に寄与します。

【市民・事業者】

・「便利」の、その先へ

これまで「行かない」「書かない」「迷わない」の取組で実現した「便利」さを揺るぎない土台とし、その先にある、一人ひとりに寄り添う丁寧な対話と、質の高いサービスによる課題解決を推し進めます。

・豊かさを実感できる未来へ

DXの恩恵により市民一人ひとりが「便利」さを実感し、その活力が地域全体の持続的な発展へとつながる『選ばれるまち山形市』を目指します。その実現に向け、市民・事業者との接点と行政内部の双方においてデジタル化を強力に推進します。時代の変化を的確に捉え、サービスのあり方を常に見直し、進化させていきます。

【市役所】

・信頼を基盤とした挑戦

市民・事業者の皆様と築き上げてきた信頼を基盤とし、「便利」という現状の「当たり前」に満足することなく、サービスのあり方を常に進化させる挑戦を続けます。

・行政経営の強化と時間の創出、EBPM(証拠に基づく政策立案)

未来へつなぐ「行政経営」を更に強化し、「便利」なサービスの裏側にある業務生産性を最大限に高めることで、市民・事業者の皆様と真に向き合うための時間を創出します。併せて、データに基づく客観的な政策立案・検証のサイクルを確立し、多様化する市民ニーズに的確に応える、根拠に基づいた質の高い行政運営へと転換を図ります。

1-3 DX(デジタル・トランスフォーメーション)とは

D(デジタル) **X**(トランスフォーメーション)

最新技術
テクノロジー

変革
(変わって新しいものになること)

定義

「テクノロジーによって**生活が変わり、より便利**で良くなること。」

1-4 DX推進戦略の位置づけ

国の示す主な法令、方向性

デジタル社会形成基本法

デジタル社会の実現に向けた重点計画

デジタル行財政改革会議が示す取組・方向性

デジタル田園都市国家構想基本方針

自治体DX推進計画

官民データ活用推進基本法

人材育成・確保基本方針策定指針

自治体DX推進計画

【各自治体においてDXを進める前提となる考え方】

1. BPRの取組の徹底
2. 自治体におけるシステム整備の考え方
3. オープンデータの推進・官民データ活用の推進

【自治体におけるDXの推進体制の構築】

1. 組織体制の整備
2. デジタル人材の確保・育成
3. 計画的な取組
4. 都道府県と市区町村の連携による推進体制の整備

【重点取組事項】

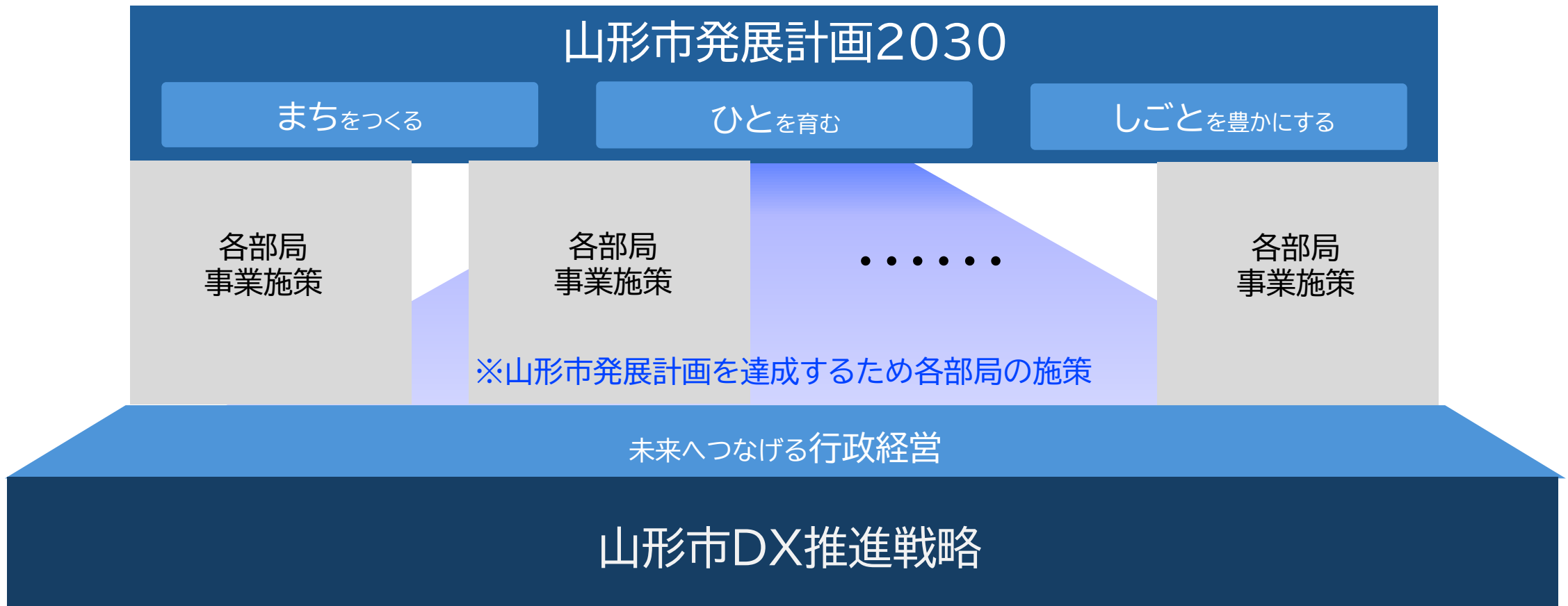
1. 自治体フロントヤード改革の推進
2. 地方公共団体情報システムの標準化
3. 「国・地方デジタル共通基盤の整備・運用に関する基本方針」に基づく共通化等の推進
4. 公金収納におけるeL-QRの活用
5. マイナンバーカードの取得支援・利用の推進
6. セキュリティ対策の徹底
7. 自治体のAIの利用推進
8. テレワークの推進

【自治体DXの取組とあわせて取り組むデジタル社会の実現に向けた取組】

1. デジタル実装の取組の推進・地域社会のデジタル化
2. デジタルデバйд対策
3. デジタル原則を踏まえた規制の点検・見直し

社会情勢の変化やデジタル技術の進展等に対応するため、国の法令、方向性に準じて「山形市DX推進戦略」を策定します。

1-5 本市における「DX推進戦略」の位置づけ



DX推進戦略の位置づけ

- ・「山形市DX推進戦略」は、山形市の最上位計画である「山形市発展計画2030」が掲げる将来像を実現するため、DXを推進力とするための実行戦略です。
- ・「山形市DX推進戦略」では、デジタル技術の活用とDXの推進を、「山形市発展計画2030」の各施策に共通する横断的な視点として位置づけます。
- ・「山形市スマートシティ推進基本計画」を「山形市DX推進戦略」へ統合し、一体的な取組として推進します。

1-6 推進期間

Step1 令和8年度～令和10年度の3年間とします。

Step2 令和11年度～（次期の推進戦略にて推進期間を設定予定）

※本戦略は社会情勢や技術動向の変化を踏まえ、必要に応じて柔軟に見直しを行います。



霞城公園の桜

02

山形市の取組について

蔵王の樹氷



2-1 これまでの山形市の取組

山形市ではさまざまなデジタル化やDXの取組をしています。

山形市発展計画2030 二大ビジョン:「健康先進医療都市」「文化創造都市」

山形市健康ポイント事業 スクスク
SUKSK



健康
DX

SUKSK(スクスク)生活の推進による健康寿命の延伸の取組。

■健康ポイント事業「SUKSK」

- ・スマートフォンアプリを使い、日々の健康活動を応援、健康ポイントがたまり、市民の「SUKSK生活」を推進。
- ・AIが歩数や健康診断データを基に健康アドバイスを提供。



文化
DX



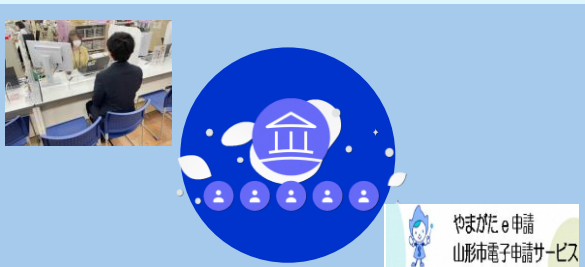
Yamagata City of Film
ユネスコ創造都市やまがた

文化と観光・教育などを結びつけるためDXの活用推進など。

■文化活動の基盤・発信力強化のためのDX

- ・ユネスコ創造都市(映画分野)としてのデジタル活用(発信、アーカイブ)
- ・中小企業・クリエイターへのDX支援

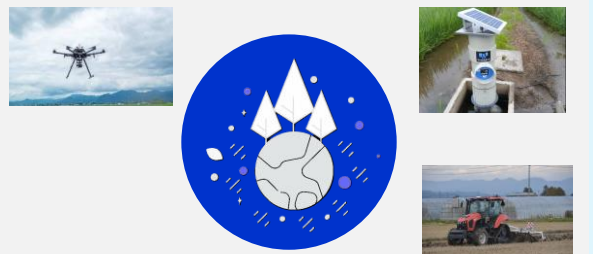
山形市では政策分野別にさまざまなデジタル化やDXを進めています。



行政 DX 行かない、書かない、迷わない窓口の取組を推進など

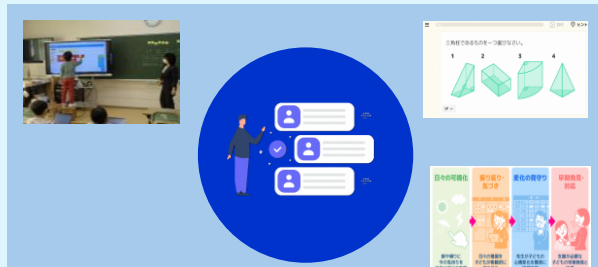
- ・行かない窓口（オンライン・コンビニ活用、電子入札導入）
- ・書かない窓口（申請書作成支援）
- ・迷わない窓口（案内誘導・ワンストップ化）

やまがたe申請
山形市電子申請サービス



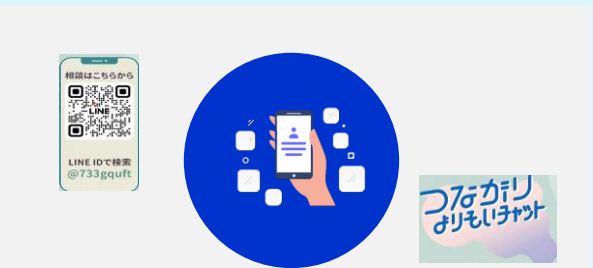
農林 DX スマート農業の推進による生産性向上

- ・自動操舵トラクター等の導入による作業の自動化
- ・ドローンやデジタル技術の導入による、最適な農業散布や収穫時期の判断
- ・AIやIoTを活用した土壌・作物のリアルタイムモニタリング



教育 DX 児童生徒の「学び」と教職員の「働き方」のDXの取組など

- ・電子黒板、AIドリル、自動採点ソフト、電子書籍等の導入
- ・校務支援システムと保護者連絡システムの健康観察との連携
- ・高性能気象IoTセンサーを活用した熱中症対策

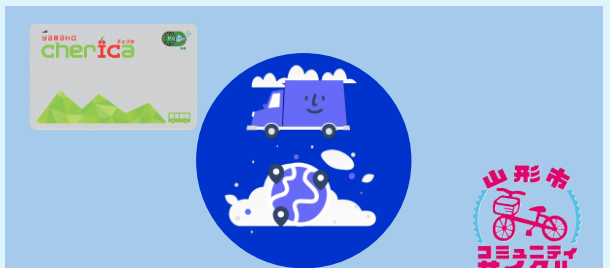


福祉 DX 現代社会における「孤独・孤立」という深刻な課題に対応など

- ・つながりよりそいチャット（孤独DX）
- ・傾聴型生成AIと専門職によるハイブリッド型相談窓口（傾聴型生成AIによる24時間対応 専門スタッフによる有人対応）

LINE IDで検索
@733gquft

つながりよりそいチャット



公共交通 DX 市民の「移動の足の確保と利便性向上」を目指す取組など

- ・相乗りタクシー
AIマッチングシステムを導入、相乗りを促進
- ・コミュニティサイクル（ベニチャリ）
- ・コミュニティバス（ベニちゃんバス）等

山形市
ベニチャリ



こども DX 保護者の負担を軽減し、手続きをスムーズにする取組など

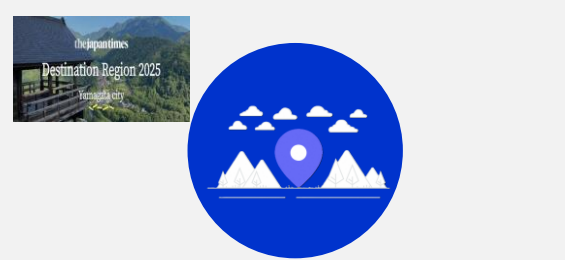
- ・母子健康手帳アプリ「やまがた出産・子育てアプリ」の導入。
- ・チャット相談「おやこよりそいチャットやまがた」



**都市整備
DX**

深刻化する人手不足への対応と、生産性・安全性の向上など

- ・情報共有システムの活用 ・遠隔臨場の導入
- ・自動積雪観測システムの導入
- ・除雪車運行管理システムの導入
- ・LINEによる道路損傷等通報の運用



**観光
DX**

交通・周遊の利便性向上、観光案内所の強化など

- ・「日本一の観光案内所」の設置に向けた検討
- ・公共交通・移動のデジタル化に加えて、観光案内所の機能強化(デジタル技術、データを活用した情報発信や体験提供など)



**商工
DX**

市内の中小企業の生産性向上や経営課題の解決、推進など

- ・地域活性化プレミアム付電子商品券(ベニpay)
- ・山形市企業DX推進相談窓口設置



山形市では政策分野別にさまざまなDXを進め、
「山形市発展計画2030」の実現を目指します。

山形市が日本DX大賞2025 地域DX部門大賞を受賞！！

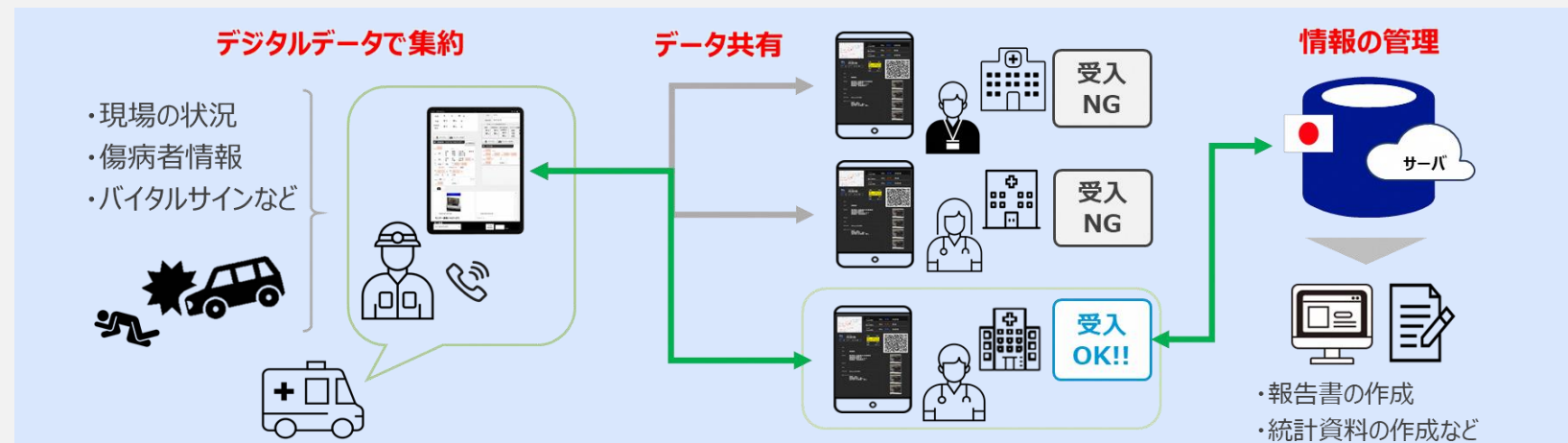
「救急医療情報共有システムの運用」において先進的な取組が評価され受賞しました。

取組概要



- ・救急現場で得た情報をより早く医療機関と共有するためのシステムを導入。
- ・「救急車の現場滞在時間短縮」「傷病者に適した医療機関への早期搬送と早期治療開始」を図り、市民の皆様をより早く医療機関に搬送することが可能となりました。

※病院への連絡回数削減、病院決定時間削減



◆ 救急隊と医療機関にタブレット端末を配備して、救急現場の情報をリアルタイムで共有します。

03

山形市を目指すDX

蔵王の樹氷



3-1 DX推進戦略の取組の流れについて

「当たり前」のレベルをもう一段高め、発展計画に掲げる全ての施策で「便利」さを更に追求すること。データがつながることで、市民一人ひとりに寄り添う「新しい価値」創出を目指します。

1. 便利の「当たり前」を更に高く

窓口業務からはじまる、「便利」さを更に市全体の取組として追求していきます。



—— これまでの実績を土台に
「3つのない」を更に追求

- 「行かない」: 電子申請・施設予約拡充など
- 「書かない」: 窓口での作成支援を更に強化
- 「迷わない」: 親切な案内とワンストップ化
- 紙運用→デジタル運用の促進(データ)

Step1

2. DXでしか成し得ない

「新しい価値」を創出、基盤整備

データ利活用を見据えたデジタル化、DXを進めます。

—— デジタル基盤・アプリの構築

- 庁内インフラ基盤の整備
- ペーパーレス推進、職員の働き方DX
- 「スーパーアプリ」を実装
- 共通データ基盤の構築

「選ばれるまち山形市」の創造 (DX)

データ駆動による行政運営を目指します。



2040年のまちの姿(イメージ)

—— データ駆動型の政策立案 (EBPMの実現)

- 客観的データに基づく、質の高い行政運営
- 科学的な仮説検証サイクルの確立
- 市民ニーズに即した迅速な改善 (データ: デジタルマーケティングの実現)

DX推進
戦略

Step2

3-2 より便利な手続きを目指して



Yamagata city
DXチャレンジ
「らくっす」

3つの「ない」

これまで市民・事業者の皆様との一つひとつの関わりを常に**便利**で価値あるものにしてきた実績を土台とし、今後も**「行かない」「書かない」「迷わない」**の取組を更に進化させていきます。

「行かない」



市役所へ行かなくても、ご自宅のスマートフォン等から手続きを済ませられることを原則とし、市民・事業者にとってより身近な市役所にします。

「書かない」



これまで市役所の手続きでは、多くの書類に氏名や住所等を繰り返し記入いただく必要がありましたが、更に書かないを進め、より快適な市役所にします。

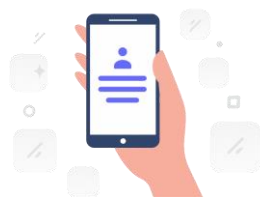
「迷わない」



手続きの事前準備から完了まで、どなたも迷わないよう親切な案内や仕組みに努め、よりわかりやすい市役所にします。

3-3 DXで変わる市民・事業者の暮らしと市役所の姿

オンライン申請の拡充



どこでも利用できる、簡単・**便利**な「行かない市役所」を更に進めます。

窓口サービスの充実



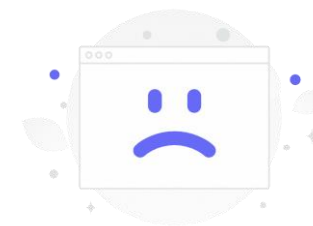
「**書かない**」「**迷わない**」市民・事業者本位の窓口を更に目指します。

市民・事業者との接点の明確化



市民・事業者との接点をわかりやすく、**便利**なサービスを更に目指します。

誰にもやさしいデジタル化



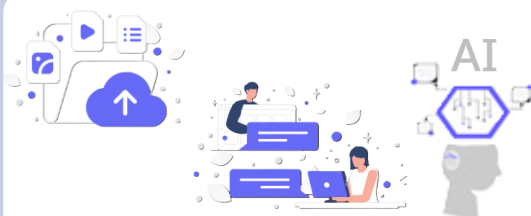
親切で分かりやすい案内、サポートでよりよい市役所を目指します。

バックヤード業務の効率化



BPR、RPAやAI活用による業務の効率化を進め、市民・事業者の皆様に向き合う時間を創出します。

インフラ環境整備



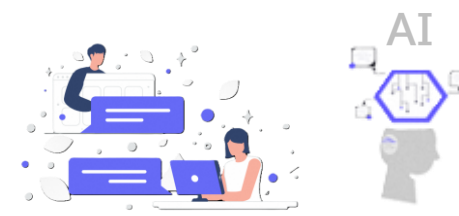
ネットワーク、クラウド、生成AI活用などの環境整備を進め、市民・事業者ニーズに応えられる体制を構築します。

データ利活用



データ利活用の環境整備を行い、データ駆動型の政策立案と行政経営を目指します。

DX人材育成・確保



DX推進リーダー育成、職員のDXリテラシー向上を図り、市民・事業者サービスの向上を図ります。

市民・事業者の皆様へより**便利**で質の高い行政サービスを提供するため、山形市は、職員の創造性を最大限に発揮できる組織へと進化します。

更に市民・事業者視点に立った行政サービスの拡充を図ります。

BEFORE



- ・申請手続きは窓口への来庁が必要でした
- ・申請書をご自身で記入していただくかなければならず、作成に多くの時間と手間を要していました。
- ・開庁時間内に合わせてご来庁いただく必要があり、時間を拘束してしまう状況にありました。



現在:「行かない」「書かない」「迷わない」取組推進

書かない窓口



申請書を書かず、対面で聞き取り申請書を作成します。

手続案内



聞き取りをもとに、お一人お一人に個別の案内表を作成するので、迷うことも手続きが漏れることもありません。

オンライン申請



市役所に来庁する必要がなく、スマートフォンやパソコンから、24時間いつでも申し込みができます。

コンビニ交付



マイナンバーカードを利用して住民票の写しや印鑑登録証明書、戸籍証明書などをコンビニのマルチコピー機から取得できます。

AFTER

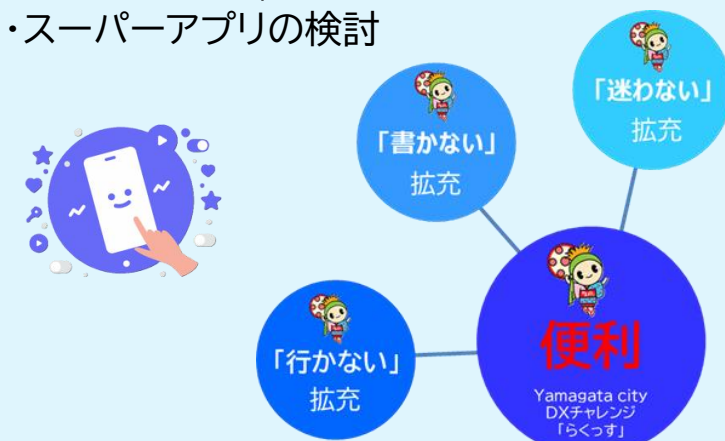
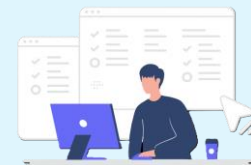
Step1

今までの取組を土台に更にサービス拡充を図ります。

- ・「書かない窓口」の拡充
- ・オンライン申請の拡充
- ・施設予約システムの拡充

※キャッシュレス化

- ・スーパーアプリの検討



行政サービス:D(デジタル)X(変革)を進め、市民・事業者視点でより**便利**で新しい価値を創造していきます。

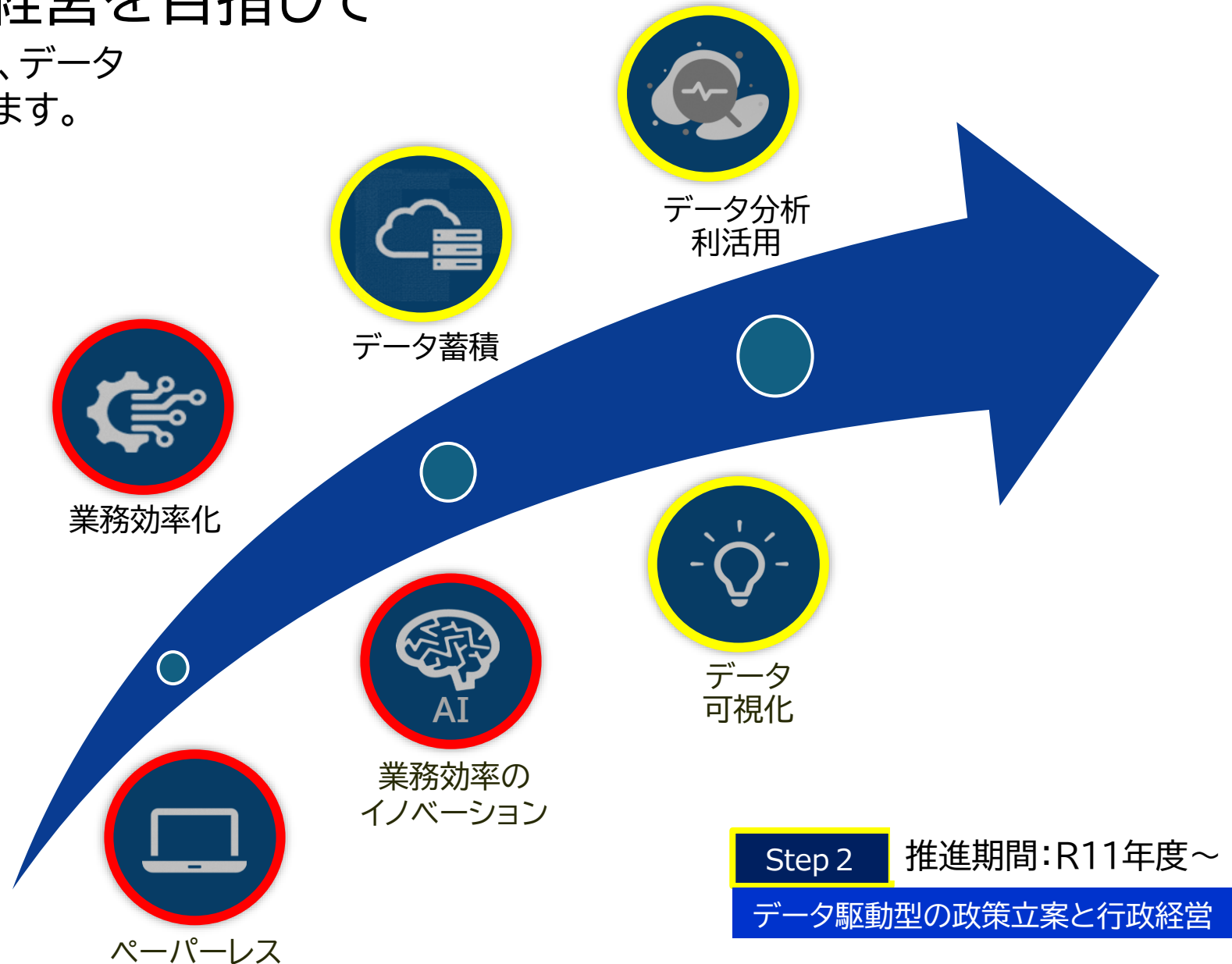
3-4 より質の高い行政経営を目指して

市民・事業者のサービスの向上のために、データ利活用を見据えたデジタル化、DXを進めます。

Step1 推進期間:R8～R10年度

1. 「行かない」「書かない」「迷わない」取組集中期間
2. データ利活用を見据えたデジタル化拡充期間

- 1 業務プロセスの最適化と生産性の向上
最新のデジタル技術を積極的に業務に取り入れ、その利点を最大限に活用します。これにより、従来の業務プロセスの見直し、時間外勤務の削減につなげ、組織全体の生産性を向上させます。
- 2 市民サービスの質の向上と新たな価値の創出
業務効率化によって生み出された時間や資源を、市民一人ひとりのニーズに寄り添った、より質の高い行政サービスの企画・提供に注力します。
またデータ駆動型の行政経営を見据え、紙からデータへ、生成AIの利活用も進めていきます。
- 3 柔軟で創造的なワークスタイルの確立
従来の固定観念や慣習にとらわれず、時間や場所を有効活用できる、デジタル社会にふさわしい働き方を確立します。職員一人ひとりが能力を最大限に発揮できる、創造性豊かな職場環境を構築します。



Step2 推進期間:R11年度～

データ駆動型の政策立案と行政経営

3-5 変わる職員の働き方(働き方DX)

職員の働き方を進化させ、市民・事業者と向き合う時間を増やし、2040年の目指すまちの姿の実現を後押しします。

ペーパーレスの推進

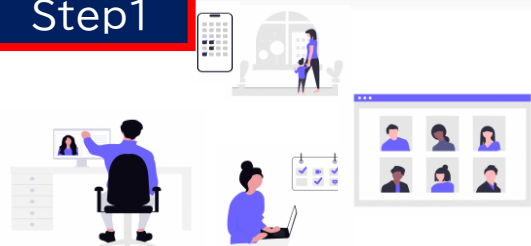
Step1



重要なのは紙ではなく情報(データ)です。業務の進め方を紙主体からデータへと変えていきます。

インフラ環境整備

Step1



場所にとらわれない仕事や会議の方法に、見直していきます。
(リモートワーク、フリーアドレス)



協同、共創をより進化させるワークプレイスへ変革

職員のワークスタイルを変えていきます。

- ・部門を超えた協同と市民・事業者との共創
- ・柔軟で効率的な働き方
- ・紙に頼らない業務スタイル
- ・職員のデジタルスキルアップ
- ・生産性向上による時間外勤務の削減

デジタル・クラウドツールの活用

Step1



デジタルとクラウドを活用し、協同と共創を推進することで、職員と組織全体の生産性を上げていきます。

データ駆動型行政運営

Step 2



蓄積されたデータを基に、根拠に基づく政策立案(EBPM)をします。

職員のワークスタイルが変わります(イメージ)

BEFORE



※フリーアドレス未導入

【執務環境】

- ・紙中心の業務環境。
- ・個人の机の引き出しや、部署の共有キャビネット で保管(ファイリング)
- ・場所に縛られた業務環境(常に自席で業務を行う)

【会議の方法】

- ・紙の資料を人数分印刷して配布
- ・紙の印刷、ファイリングなど手間暇がかかる
- ・紙の持出しはセキュリティ的な観点からも改善必要
- ・会議は対面が原則



AFTER



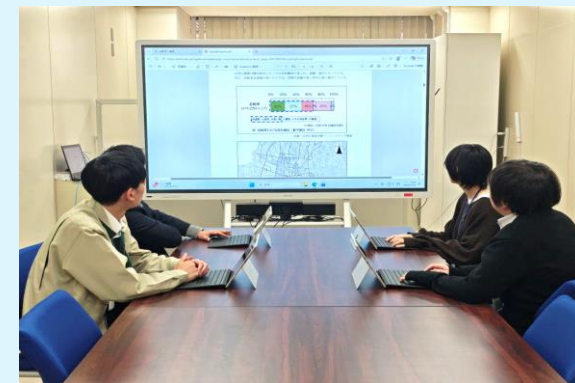
※フリーアドレス導入

【執務環境】

- ・業務は紙→電子データへ(ペーパーレス)
- ・データはクラウド等での一元管理・共有。
- ・自部署だけでなく部署を超えたコミュニケーションにより生産性が高まる。

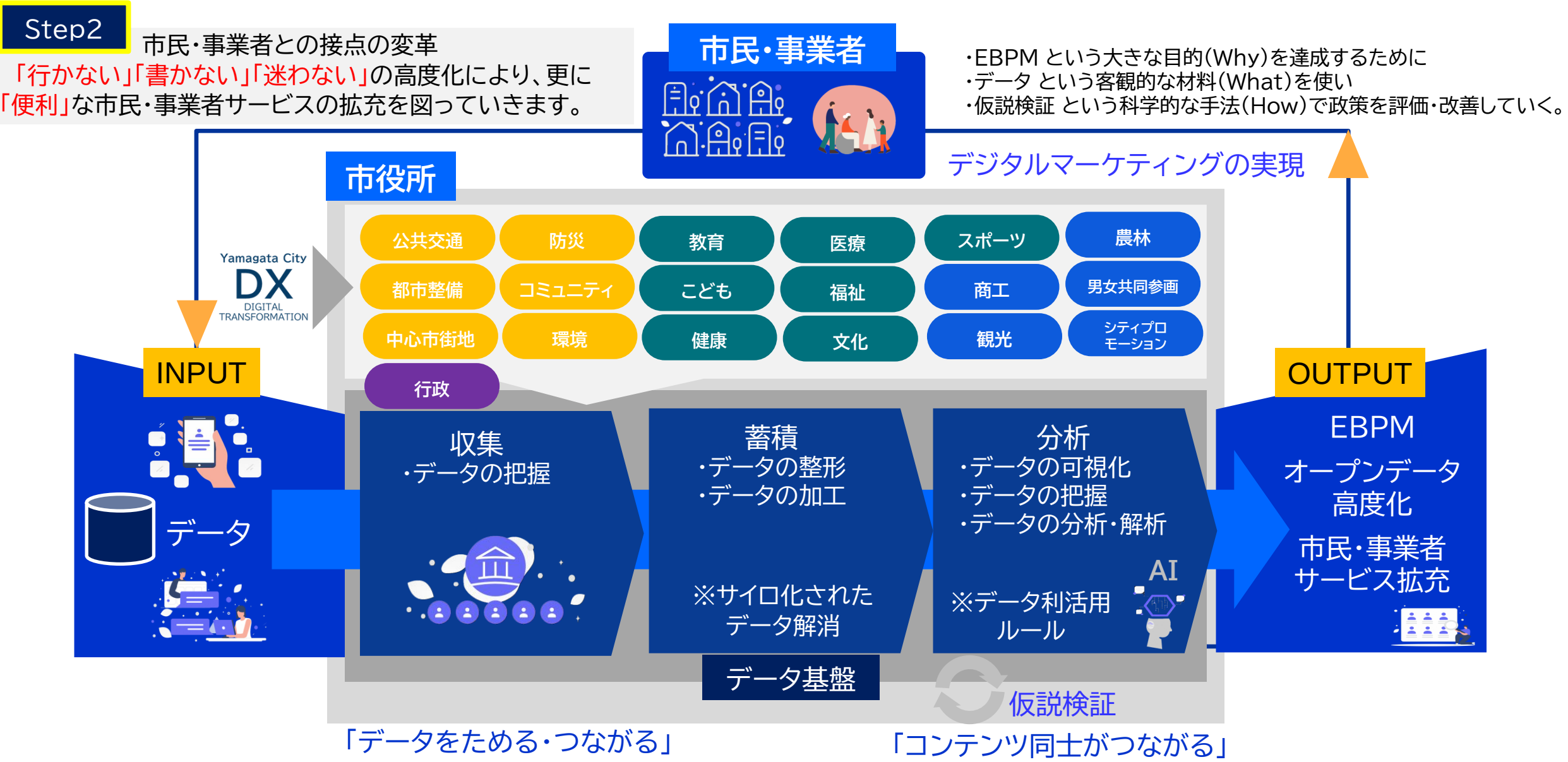
【会議の方法】

- ・会議は画面共有が基本
- ・資料はクラウド上で共有(常に最新版)
- ※印刷・配布の手間とコストがゼロになる
- ・会議は自席からも参加可能(ハイブリッド)



職員の働き方:D(デジタル)X(変革)を進め、より行政経営を効率化し、市民と向き合う時間を創出します。

3-6 目指すデータ駆動型の政策立案と行政経営について



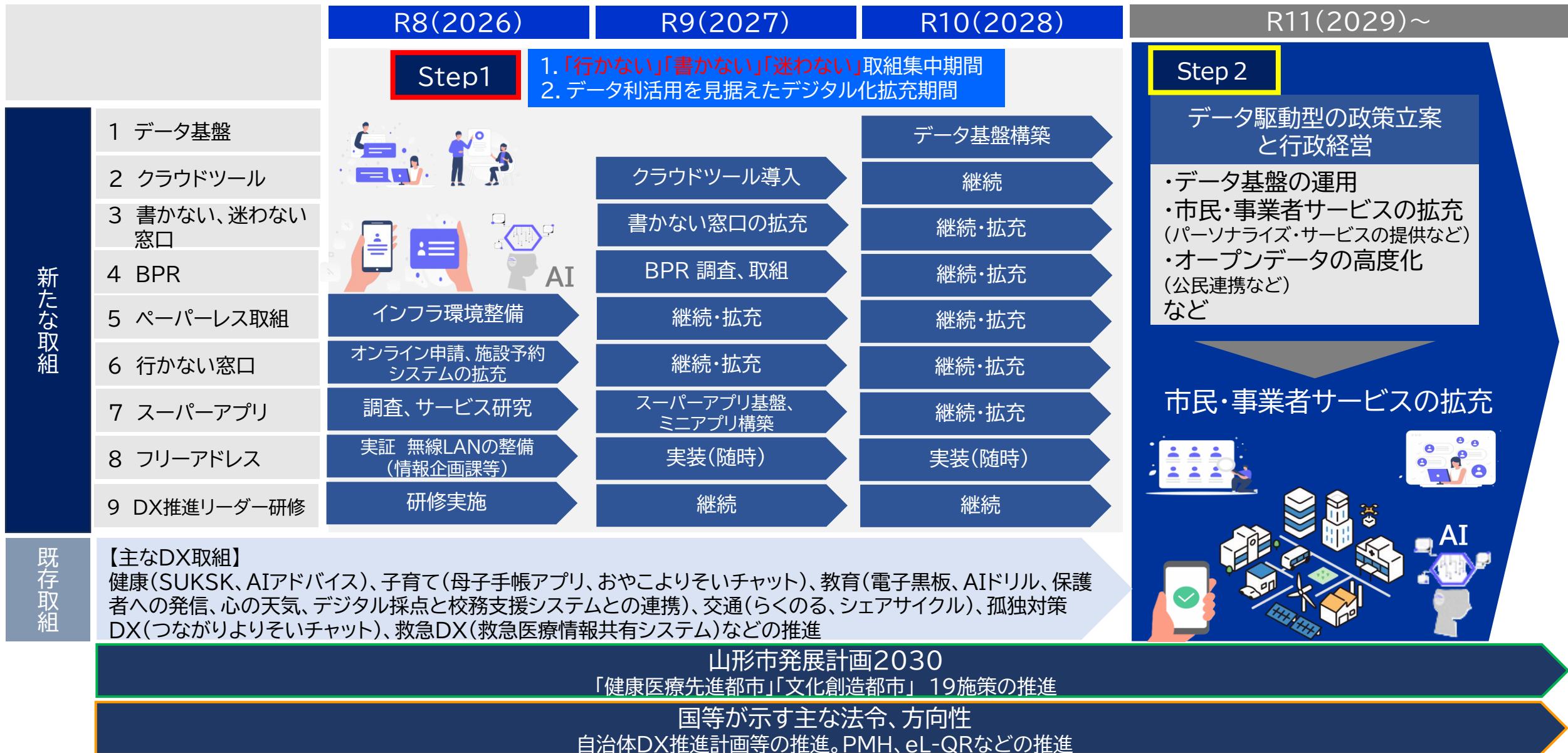
04

推進ロードマップ

蔵王の樹氷



4-1 ロードマップ



05

用語集

蔵王の樹氷



用語集

AI	Artificial Intelligenceの略。人間の思考プロセスと同じような形で動作するプログラム、または人間が知的と感じる情報処理・技術のこと。
BPR	Business Process Reengineeringの略。実務本来の目的に向かって既存の組織や制度を抜本的に見直し、プロセスの視点で、職務・業務フロー・情報システム等をデザインし直すこと。
DX	Digital Transformationの略。ICT化は既存の業務プロセスにデジタルツールを用いて効率化することが主な目的だが、DXはデジタルを活用して事業のあり方自体を変革することを意味する。英語圏で「Trans」を「X」と略することから、デジタルによる変革(Digital Transformation)は「DX」と略される。
EBPM	Evidence-Based Policy Makingの略。政策の企画をその場限りのエピソードに頼るのではなく、政策目的を明確化したうえで合理的根拠(エビデンス)に基づくものとする。政策効果の測定に重要な情報や統計等のデータを活用することで、政策の有効性を高めるもの。
eLTAX	「エルタックス」と読む。地方税ポータルシステムの呼称で、地方税における手続きを、インターネットを利用して電子的に行うシステムのこと。地方税の申告、申請、納税などの手続きは、紙の申告書で手続きを行う場合、それぞれの地方公共団体で行う必要があったが、eLTAXは、地方公共団体が共同で運営するシステムであり、電子的な一つの窓口によるそれぞれの地方公共団体への手続きを実現している。
ICT	Information and Communication Technologyの略。情報(Information)や通信(Communication)に関する技術の総称のこと。
IoT	Internet of Thingsの略。「モノのインターネット」を意味し、家電製品・車・建物など、さまざまな「モノ」をインターネットと繋ぐ技術のこと。「電気を付けて」「音楽をかけて」といったように、IoTデバイスに話しかけるだけで家電の操作をしてくれるものなどがある。
PMH	Public Medical Hubの略。介護保険、予防接種、母子保健(乳幼児健診、妊婦健診)、公費負担医療や地方単独の医療費助成などに係る情報を、自治体や医療機関、対象者間で連携するシステムのこと。
RPA	Robotics Process Automationの略。これまで人間が行ってきた定型的なパソコン操作をソフトウェアのロボットにより自動化するもの。
SUKSK(スクスク)	山形市民が「SUKSK(スクスク)生活」により楽しく取り組んでもらえるように始まった事業。SUKSKとは、それぞれ食事(S)、運動(U)、休養(K)、社会(S)、禁煙・受動喫煙防止(K)を表す。健康づくり活動へ参加したり、健(検)診を受けることでポイントをためることができる。ためたポイントは、山形県の特産品や市内店舗で使える商品券などが当たる抽選に応募できる。
オープンデータ	国、地方公共団体及び事業者が保有する官民データのうち、国民誰もがインターネット等を通じて容易に利用(加工、編集、再配布等)できるよう、①営利目的、非営利目的を問わず二次利用可能なルールが適用されたもの、②機械判読に適したものの、③無償で利用できるもの、のいずれにも該当する形で公開されたデータ。
クラウドツール	インターネット経由で提供されるソフトウェアやサービスのことで、サーバーやアプリケーションの管理は提供側が行い、ユーザーはブラウザや専用アプリから場所やデバイスを問わず利用できる仕組み。

用語集

スーパーアプリ	複数の異なる機能やサービスが統合されたアプリケーションのこと。電子商取引や金融サービス、SNS、動画配信、スケジュール管理、メモ帳、天気予報など様々な機能を集約し、1つのサービスとして統合して提供するもの。自治体スーパーアプリでは、申請手続、防災情報、ごみ出し、施設予約などの機能を持つことが多い。
スマートシティ	グローバルな諸課題や都市や地域の抱えるローカルな諸課題の解決、また新たな価値の創出を目指して、ICT等の新技術や官民各種のデータを有効に活用した各種分野におけるマネジメントが行われ、社会、経済、環境の側面から、現在および将来にわたって、人々により良いサービスを提供する都市または地域のこと。
スマート農業	AI・IoT・ロボット・ドローンなどの先端技術を活用し、農業の省力化・精密化・高品質化・効率化を実現する次世代の農業形態で、人手不足や高齢化といった課題解決と生産性向上を目指すもの。
デジタルデバイド	インターネットやパソコン等の情報通信技術を利用できる人と利用できない人との間に生じる格差のこと。
デジタルマーケティング	Webサイト、SNS、メール、アプリ、デジタル広告など、あらゆるデジタル技術やチャネルを活用して顧客と接点を持ち、顧客データの分析に基づいたアプローチをすることにより、顧客体験の最適化と売上の拡大を目指すマーケティング手法。
データ基盤	企業などが持つ多様なデータを集約・蓄積・加工し、分析・可視化してビジネス価値を生み出すためのシステムやインフラの総称。データ基盤を構築することにより、膨大なデータを一元管理し、効率的に活用できる環境を整えることができる。
テレワーク	ICT(情報通信技術)を利用し、時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方のこと。勤務場所により、大きく①在宅勤務、②モバイルワーク、③サテライトオフィス勤務に分けられる。
電子黒板	PCやタブレットと接続し、画面に直接書き込みや操作ができる大型ディスプレイで、従来の黒板・ホワイトボードのデジタル版のこと。
ドローン	人が乗らずに遠隔操作や自動操縦で飛行できる航空機の総称。ドローンは農業、物流、測量、災害対応など幅広い産業で利用されている。
フリーアドレス	会社や庁舎内で職員が固定席を持たず、空いている席を自由に選んで働くワークスタイルのこと。コミュニケーションの活性化やスペースの有効活用につながり、テレワークとの相性も良いため、柔軟な働き方を支援する仕組みとして導入されている。
フロントヤード改革	住民サービスの利便性向上と業務の効率化を進め、企画立案や相談対応への人的資源のシフトを促し、持続可能な行政サービスの提供体制を確保していくために、「書かないワンストップ窓口」など、住民と行政との接点(フロントヤード)の改革を進めていくこと。
ペーパーレス	紙の書類を使わずに、電子データで業務を行うことで、業務効率化、コスト削減、テレワークへの対応、環境負荷の軽減などを目指すもの。
ミニアプリ	「スーパーアプリ」と呼ばれる基盤アプリ内で利用できる、電子商取引や金融サービス、SNS、動画配信、スケジュール管理、メモ帳、天気予報などの個別機能のこと。



Yamagata city
DXチャレンジ
「らくっす」